

領域と分野	分野別目標
3-4 社会環境 整備	地域のつながりを醸成する

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34

【望ましい姿】

都民一人ひとりが、近隣や地域の人と何らかの良い関係を築いています。
一人ひとりが自由に選択した地域活動への参加を通じ、住民同士のつながりが強化されています。遠くまで行くことができない人も、区市町村が提供する情報を得て、身近な場所で行われる活動に参加しています。
地域のつながりが豊かになることで、心身の健康に良い影響が生じています。

【これまでの主な取組】

- 地域の実情に応じた区市町村の健康づくりに関する取組好事例を紹介することで、地域における健康づくりの参考となるよう、「地域のつながりを通じた健康づくり事業事例集」を作成し、ホームページ上に掲載
- 保育現場等で働きたいと強く訴求するための動画やチラシなどを作成し、普及啓発することで、元気高齢者や主婦等多様な人材を掘り起し、保育サービス等の担い手となる人材を確保
- 地域の子育て家庭に対して、身近な場所につどいの場を提供し、区市町村による子育て相談事業などを推進
- 全ての子供やその保護者が気軽に立ち寄れる地域の「居場所」を創設し、子供に対する学習支援や保護者に対する養育支援、食事提供をはじめとした生活支援を行うことで、様々な事情を有する子供と保護者に対して包括的な支援を行い、生活の質の向上と地域全体で子供や家庭を支援する環境を整備【再掲】
- 地域の課題を解決するために、地域活動の担い手である町会・自治会が取り組む事業に対して、助成支援
- 区市町村の取組に対して、包括補助による財政的支援を実施

1 【指標の達成状況及び評価】

指 標		指標の 方向性	パースティ 値 (H25)	現状値 (H28)	増減率	評価
地域で活動している団体の数 (健康、子育て支援、高齢、障害、生涯学習等の各部署で把握できる団体 (各部署の公共施設等に登録又は利用実績がある団体や、部署が活動を直接的・間接的に支援している団体)の数)	総数	増やす	90,461	97,586	△ 7.9%	a
	人口 千人当たり		6.89	7.21	△ 4.6%	
地域で活動している団体の 年間活動回数	総数	増やす	2,185,618	—	—	—
	人口 千人当たり		166.45	—	—	

2

3 ○ 地域で活動している団体の数は増加しており、人口千人当たりの団体数
4 も増加しています。指標は概ね改善傾向にあることから、評価を a としま
5 した。

6 ○ 地域で活動している団体の年間活動回数は、各自治体での把握状況に差
7 があったため、経年比較による指標の評価は困難と判定しました。

8

9 【参考指標の数値の推移】

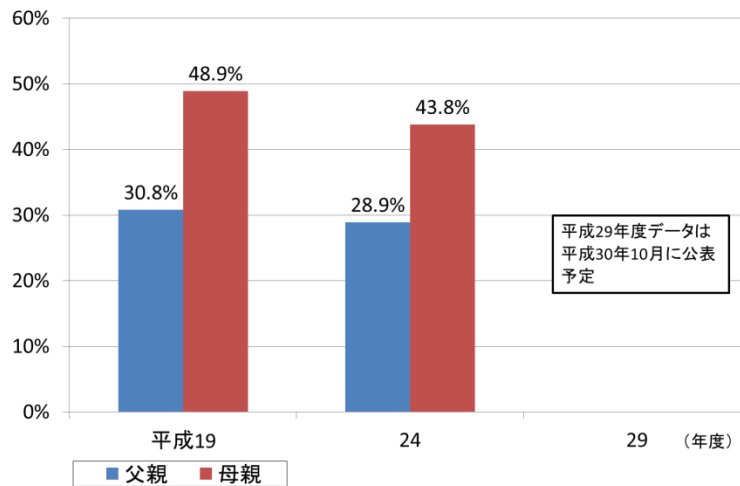
参考指標		パースティ 値	現状値
健康状態の評価 (主観的健康感(自分自身の健康状態を「よい」「まあよい」と回答した人の割合の合計))	男性 (20歳以上)	80.4% (H24)	81.4% (H28)
	女性 (20歳以上)	81.8% (H24)	80.9% (H28)
地域などの子育て活動への参加経験 (子育てをしている父親と母親で、過去1年間に「親子が共に参加できる活動やプログラム」「親同士の交流の機会やグループ活動(母親クラブなど)」「子供を保育しあったりするグループ活動」等に参加したことがある人の割合)	父親	30.8% (H19)	28.9% (H24)
	母親	48.9% (H19)	43.8% (H24)
地域のつながり等に関する都民の意識 (地域のボランティア活動や趣味のグループへの参加状況)	男性	28.6% (H25)	—
	女性	34.6% (H25)	—

10

11

- 健康状態の評価（主観的健康感）は、男女ともほぼ横ばいです。
- 地域などの子育て活動への参加経験の割合は、減少しています。<図●>
- 地域のつながり等に関する都民の意識は、参考指標策定時以降、調査がないため、現状値が把握できませんが、今後、最終評価年度に向けて調査を実施する予定です。

<図●> 地域などの子育て活動への参加経験（東京都）



資料:「東京の子どもと家庭」(東京都福祉保健局)

【現状と課題】

- 地域で活動する団体数は増えていますが、都市化・核家族化の進展に伴い、子育て世代の地域活動への参加は減少傾向にあるなど、地域における人と人との関係が希薄になっています。都民の主観的健康感の維持のため、生活習慣の改善を促すとともに地域や人とのつながりと健康との関連等、ソーシャルキャピタル（地域に根ざした信頼や社会規範、ネットワークといった社会関係資本等）の重要性について、さらに周知を図る必要があります。
- 地域とのつながりが豊かなほど、住民の健康状態が良いことが報告されています。仕事や子育てに忙しい世代に向けて、都民の健康に関わる関係機関（区市町村、職域等）と連携し、ボランティアや町内会活動などの地域活動等への参加など、区市町村等が行う地域とのつながりを醸成する取組を推進する必要があります。

1 **【取組の方向性】**

2 **■地域のつながりを活かした健康づくりの推進**

3 地域のつながりと健康状態が関係することについて、ホームページ等によ
4 り普及啓発を行うとともに、引き続き区市町村が行う地域とのつながりを醸
5 成する取組について、財政的支援を行います。

6
7 **■地域活動への参加促進**

8 ボランティア、自治会、NPO等による活動や、子育て・介護等に関する
9 集まり、高齢者や子供が世代を超えて触れ合う活動など、多種多様な地域の
10 取組について支援し情報提供することで、都民の参加を促進します。

11 また、地域における健康づくりの取組好事例を集約し、区市町村間で共有
12 することにより、ソーシャルキャピタルの強化・充実を図ります。

13
14 **■健康づくりに係る人材育成と地域・職域連携¹の強化**

15 区市町村や関係機関等において健康づくりの企画や指導的な役割を担う
16 ことが期待される人材を対象に、知識・技術を普及する研修等を引き続き実
17 施していきます。

18 また、地域の健康づくりを効果的に進めていくために、東京都健康推進プ
19 ラン21（第二次）推進会議等の機会を活用し、地域や職域での健康課題や
20 健康づくりに関する取組について認識を共有するなど、地域・職域連携の取
21 組を推進していきます。

22
23 **【最終評価に向けた目標・指標の見直し】**

24 ○ 指標「地域で活動している団体の年間活動回数」については、各自治体で
25 の把握状況に差があり、経年比較による指標の評価が困難な状況のため、同
26 指標を削除します。

27 それに代わり、新たに参考指標として「健康づくり推進員を設置している
28 区市町村の数（出典「都の実施する区市町村調査）」を追加します。

29
30 （追加する参考指標）

参考指標	パースライク値 (H22)	現状値 (H28)
<u>健康づくり推進員を設置している区市町村の数</u>	31	35

31
¹ 地域・職域連携：「健康日本21（第2次）」において、都道府県は、健康増進事業実施者、医療機関、企業の代表者、都道府県労働局その他の関係者から構成される地域・職域連携推進協議会等を活用し、これらの関係者の役割分担の明確化や連携促進のための方策について議論を行い、その結果を都道府県健康増進計画に反映させることとされている。